

学校関係者評価 結果

1. 令和2年度学校運営目標

- 1) 改正カリキュラムを構築し申請準備ができる
- 2) 看護基礎能力を身につけた学生を育成する
- 3) 教育実践力が向上するように研鑽し授業研究や研究活動の成果を発表する
- 4) 設置主体との一貫した考え方にに基づき協働する

2. 岩国医療センター附属岩国看護学校 令和2年度 自己点検・自己評価結果



評価はⅠ～Ⅶの大項目、128の小項目から構成されている。「4」が当てはまる、「3」がほぼ当てはまる、「2」がやや当てはまる、「1」が当てはまらない、となっている。

Ⅰ. 教育理念・目的・目標

教育理念・教育目的・教育目標の平均点は「3.7」であった。令和4年のカリキュラム改正においては、学生確保や地域医療への人材輩出の観点からも、独自性・特殊性・地域性などニーズを分析した上で教育目的・目標に反映して、魅力ある学校づくりを行うことを目指す必要がある。

Ⅱ. 教育課程経営

教育課程経営は、平均点は「3.6」であった。学校運営会議、教員会議、実習指導者・担当者会議、カリキュラム担当者会議などで教育に関する内容を検討してカリキュラムに反映している点が評価された。

Ⅲ. 教授・学習・評価過程

教授・学習・評価過程は、平均点は「3.4」であった。カリキュラム/実習会議は定期的開催（1回/月）されており、年間計画に沿って、現状の確認を行い改善している。今年度は、授業評価においては、学生はインターネット接続による評価入力とし、個人情報保護の上で、自由に発言できる場を設けた。

Ⅳ. 経営・管理過程

経営・管理過程は、平均点は「3.7」であった。SWOTクロス分析から戦略を抽出し、BSCを用いて3名程度の教員を1グループとして、「財務の視点」、「顧客の視点」、「学習者と成長の視点」からアクションプランを具体的・計画的にすすめている。今後は、PDCAサイクル運営シートを活用し進捗管理を継続していく。

Ⅴ. 入学

入学は、平均点は「3.8」と最も高い点数であった。山口県においても例にもれず、少子化が進み、学生確保には苦慮している。今年度はコロナの影響もあるが、Web型オープンスクール、高校訪問（昨年15回、287名、今年度7回、59名）を実施した。引き続き岩国医療センターの附属であることの強みを生かし、募集活動に努力する。

Ⅵ. 卒業・就職・進学

卒業・就職・進学は、平均点は「3.4」であった。卒業生への支援体制について、今年度からホームカミングデーを開催して卒業生が自由に話せる場の提供を行い、好評であった。今後も継続的に支援体制を整えたい。

Ⅶ. 地域社会/国際交流

地域社会/国際交流は、平均点は「3.3」であった。学生ボランティアはコロナ禍において思うように活動できなかったが、Webなどを活用した参加など計81名が携わることができた。

Ⅷ. 研究

研究は、平均点は「3.3」であった。点数は年々上昇している。研究発表数は横ばいだが教員研究助成金を活用して施設を超えた領域別の教員研究活動は継続しているため、来年度発表に向け支援体制を整えたい。

3. 外部委員からの意見

質の高い教育が実施されているのが十分わかる。少子高齢化による受験者減少、相対的な学生の質低下に対して、教育者として学生に寄り添い教育を行い、学校の質の向上とICTを活用した学校情報発信などを行い、受験者確保、質の高い学校教育を行ってほしい。